

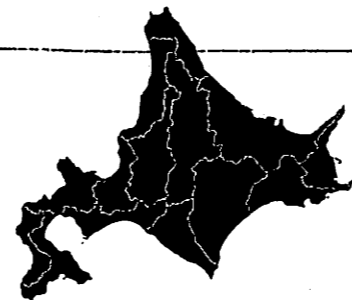
川や海、森や湖に触れる機会が多い釣り人は、
動植物たちの次に、環境の変化に
敏感でいられる存在なのかもしれない。
だからこそ、できること、
やらなければならないことがある……

第③回

自然の川を取り戻すために……

検証

北海道のダム計画



「こんなところに、またダムができたのか……」
釣り人なら誰しも、1度や2度はそんな経験があるはずだ。
その時あなたは、「このダムは本当に必要なのか」と考えたことがあるだろうか？
ダム計画はこれまで、知らないうちに工事が進められ、
魚の減少や河川環境の変化に気づいた時には手遅れということが多かった。
しかし近年、ダム建設を見直す動きが活発化している。
見直しの追い風が吹く今、釣り人にできることはないだろうか……。

現状を知る ことから 始めよう

10月下旬、函館市民の間から建設に
疑問の声があがっていた、松倉ダ
ムの「計画中止」が決まった。これで、
道の「時のアセスメント」の対象事業に
なった白老、トマム、松倉の各ダム計画
は、いずれも姿を消すことになる。
ここ数年、全国的にダム建設を見直す
動きが加速している。河川法が改正され
たり、公共事業を再評価する「時のアセ
ス」のようなシステムも登場した。計画
をたてれば必ずダムができる、という時
代は幕を閉じつつある。

しかし、「黙っていてもダム建設が見直
されるのか」といえば、それは違う。別
項の図のように、道内にはまだまだたく
さんのダム計画がある。人里離れた場所
なだけに、知らないうちに工事が進めら
れたり、釣り人が魚の減少や河川環境の
変化に気づいたときには手遅れ、とい
話も多い。

そうならないための第1歩として、道
内のダム事業の現状を知ることから始め
たい。まずはダムの定義について。

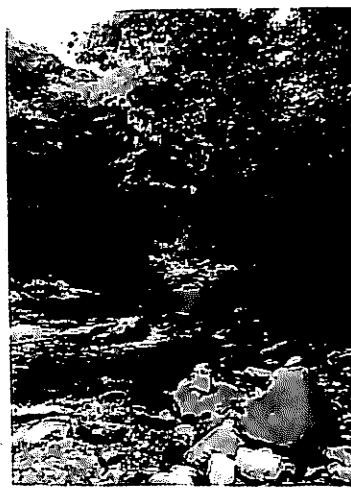
河川を横断する構造物のうち、基礎地
盤から堤頂までの高さが15m以上のもの
を「ダム」といい、それよりも低い「堰

つまり、釣り人にとっては、魚の行き
来を阻むだけのダムであっても、行政の
縄張りや建設の目的、管理者などによっ
て、担当窓口がまちまちなのだ。このこ
とは、後述のような、行政機関などに要
望したりするときの留意点になるので覚
えておいてほしい。

ダムの型式は、堤体に使用する材料に
よって「コンクリートダム」と「フィル
ダム」に分類される。

前者には、重力式（定山溪ダムや滝里
ダムなど多数）、アーチ式（豊平峡ダム）、
中空重力式（金山ダム）などがある。後
者には、堤体に砕石などを使ったロック
フィルダム（大雪ダム、十勝ダムなど）、
土を盛ったアースダム（小規模の農業用
ため池に多い）がある。「釣りにダムの型
式は関係ない」と思うかもしれないが、
知っておくと便利だろう。

これらのダムのほとんどには、魚道が
設置されていない。生まれ故郷の川に帰
って産卵するサケ科の魚にとって、ダム
は致命的な打撃を与える。



ダム計画の中止が決まり、松倉川の清流は守られた

堤」などと区別される。道内には現在、
既設分と計画・建設中のものを合わせると、
200近いダム事業がある。このうち
3分の1ほどが石狩川水系にある。

大正時代から建設が始まり、初期の頃
は水田のかがい用と発電用がほとんど
だった。戦後になると、治水と利水の機
能を併せもった多目的ダムが造られるよ
うになり、空知川の金山ダム（66年完成）
のように300戸もの集落を水没させて
しまふ巨大なものが登場する。既設ダム
の事業目的は、かがい用が3分の1ほ
どを占めており、発電ダム、多目的ダム
の順でつづく。

ダムの事業者は、いくつにも分かれて
いて、けっこう複雑だ。

まず、河川行政サイドでは、石狩川や
天塩川などの1級河川に造られる直轄ダ
ム（事業者は建設省）と、国の補助金を
受けて2級河川に造られる補助ダム（同、
道建設部）に分かれる。農業行政サイ
ドでは、農林水産省と道農政部のダムに大
別される。さらに、発電ダムは北海道電
力や電源開発など、水道・工業用水のた
めのダムは道や自治体など——と入り組
んでいて、随分とややこしい。



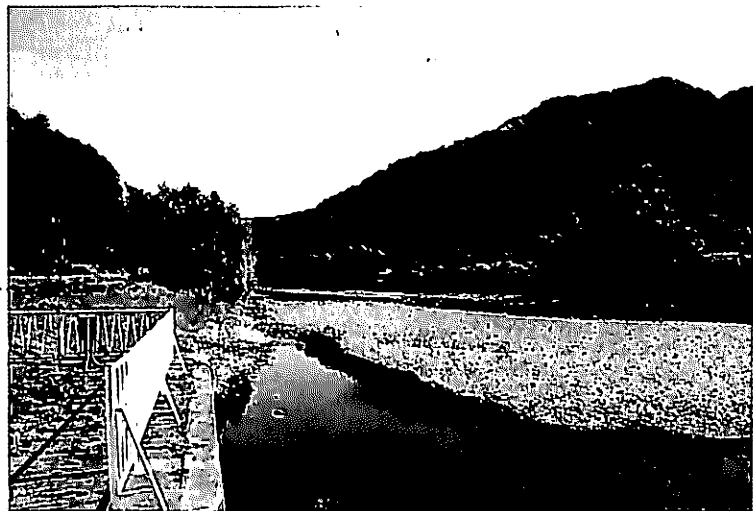
ダムの出現は、周辺の自然環境に多大な
影響を及ぼす。溯河性の魚たちにとっては
致命的だ

ダム建設で 壊される 川の生態系

前 出のダムのなかには、道内に無数
に存在する砂防ダムは含まれてい
ない。砂防ダムの所在地や規模、建設年
などを整理した資料はなく、全容を把握
している行政マンもない——という不
思議な状況で、まともなようがないのだ。

ダムは、川の流水を一時的に貯めるこ
とによって、かがい用水や水道水を供
給したり、電力を起こしたりして、生活
に恩恵を与えている。しかし一方で、ダ
ムは川が本来もっている自然の機能を断
ち切り、山と海を結ぶ生態系を壊すもの
でもある。この相反する事実を思いをめ
ぐらせ、私たちの生活のありようを問い
なおしてみたい。

上流から流れ込んだ土砂はダムでせき
止められて、湖底に堆積していく「堆砂」
という。沙流川にある北電の岩知志ダム
は、完成から30数年にして、堆砂でほぼ
埋まってしまった。ダムの設計時には1
00年間の堆砂量を試算するが、上流域
の森林、地質、地形の状態でたまる量は
違い、机上の計算どおりにはならない。
ましてや、500年、1000年たつて
土砂で埋まらないとは、誰も保証できな



秋になるとゲートが閉ざされ、ダム下流の天塩川は洪水状態。生態系が壊されている



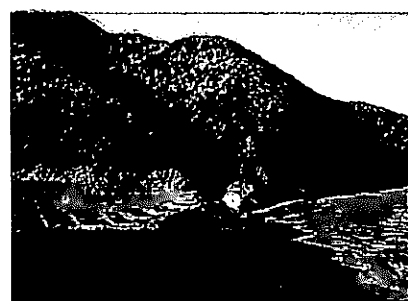
大岩ダムの建設によって300ヘクタール近い森林地帯が水没した。崩落した斜面から、土砂が湖に流れ込む(同ダムの上流部)

い。釣り人ならよく分かることだが、土砂をせき止めるので、ダム湖の上流では河床が上昇する。逆に下流では、土砂が供給されないで河床の低下が起きたり、魚の生息環境が激変する(北海道ではあまり聞かないが、本州などでは海岸の浸食も報告されている)。

ダムができる、必ず水質が悪化する。落ち葉や(場所によっては)畜産・家庭排水などがダム湖に流れ込み、栄養塩類を増やすことになる。恵庭市の漁川ダムでは、水質悪化で下流の水道水に影響が出たことがある。

大雨で流入した濁流がダム湖に沈降しない、「濁ったダム」もよく見かける。

道南の知内ダム(94年完成)では、ダム湖にたまったシルト質の土砂が雨が降ると一気に流れだし、知内川のサケが上流まで遡上しなくなったことがある。漁業者は困った。留萌の小平ダム(92年完成)では、ダム湖の濁りが長期化し、町によるワカサギ放流に支障が出て、「ダム観光の一助に」という地元の見算が狂った。上磯ダム(90年完成)でも、下流の水の濁りが長期化した。かんがいダムの



岩尾内ダムの湖底から姿を現わした水田などの跡

水抜きに伴う濁流による漁業被害の報告も各地にある。釣り人が気になる生態系への影響について、まとまった報告はない。しかし、巨大なコンクリートや碎石の壁が何をもちたらすか……。それは自明のことだ。アメリカでは、かなりの高さのダムに魚道を設置したとの話を聞くが、日本では50mクラスへの設置例はない。最近、今金町の美利河ダム(91年完成・高さ40m)に道開発局が魚道を設置する構想を練っている——との報道があったが、これもさまざまな試行錯誤が予想される。

ダムの弊害は自然環境の面だけにどまらない。

ダム建設で集落の水没移転が生じると、それが波及して地域がさびれる。そうだけでなく、ダムができるのは過疎の町だ。金山ダムでは1100ヘクタールあまり、朝日町の岩尾内ダム(天塩川水系)では170戸の集落と540ヘクタールほどの土地が水没。農林業の衰退と過疎化に拍車をかけた。

巨費が投じられる大型のダムでも、工事に伴う「ダム景気」は3〜4年で終わる。工事は大手ゼネコンの独壇場で、地元業者の出番は少ない。経済的な波及効果は一時的なものだ。地元自治体は公共事業に頼ってしまい、町づくりの活力が弱まる。そして、地域は衰える方向に進んでいく。

ダム事業には、これらのデメリットを上回る投資効果が必要だ。そこで初めて、自然と折り合いをつけられるはずだが、道内を俯瞰すると、投資効果の検討がおざなりなものが目につく。

本誌Vol.1で紹介した天塩川水系サンル川のサンルダム計画では、洪水調節による水位低減がわずかで、発電や水

道用水の投資効果が乏しい実態が明らかになっている。

最近完成した厚沢部川水系の鶴ダムは、受益農家から「計画当初(70年代)とは農業情勢が変わり、かんがい用水はいらなくなった」とそっぽを向かれた。農水省のかんがいダムには類似のケースが多く、徳志別川水系の歌登ダムや鬼志別川水系の猿払ダム、天塩川水系の雄信内ダムなどで、計画の中止、もしくは縮小の流れが強まっている。投資効果に詰め甘さがあった、と言わざるをえないだろう。

このままでは、国の財政赤字が膨らみ、生産人口が減っていく21世紀には、「無用の長物」と化し、重荷となるダムが増えるばかりだ。

公共事業に対する依存度の高さ、役所の広報不足、川に対する市民の無関心、内水面漁業者が少ない——などの要因が重なり、道内には数百ものダムがひしめ

いている。川をよく知っているはずの釣り人にも、「ダム王国」にさせてしまった責任の一端があるといえるのではないだろうか?

見直しを 求めるための 7カ条

山 川・海をつなぐ生態系を壊し、財政を圧迫するダム計画をやめさせるために、いま、釣り人や市民ができることを考えてみたい。

◎ダム予定地の流域を調べよう
 釣りをしていても、流域をあまり知らないことが多い。川の状態や生息魚種、



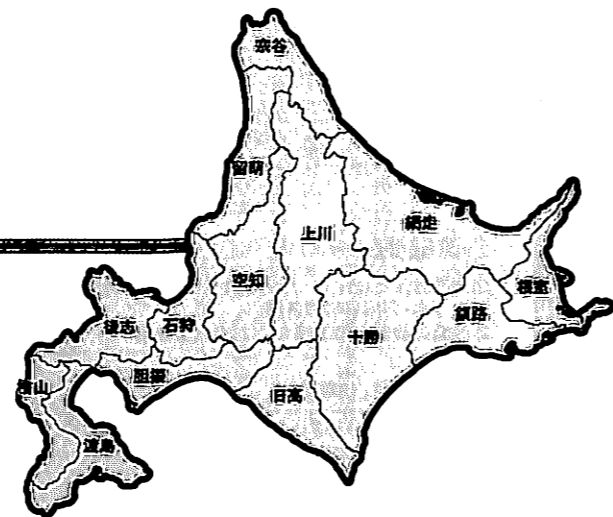
本誌Vol.1で紹介したサンルダムの建設予定地。地元住民の間からは、サンルダム計画に対する見直しの要望が出されている

おざりな 投資効果の 検討作業

建設中・調査中の ダム一覧

- 管理者の「連は建設省」、「農は農水省」、道建は「道建設部」、
「道農は道農政部」、「土改は土地改良区」
- 種類の「直は直轄ダム」、「補は補助ダム」、
「多は多目的ダム」、「都用は都市用水」

※この表は、平成8年12月現在の「建設中・調査中のダム一覧」と平成7年12月現在の「北海道のダム一覧」をもとに、平成10年11月現在の現況を編集部で調査したものです。



石狩支庁 Ishikari

ダム名	河川名	所在地	湛水面積 (km ²)	種類	管理者	現況
当別	石狩川水系当別川	当別町 十万坪	6.70	補多	道建	準備工事中
望来	望来川水系望来川	厚田村 字望来	0.60	かんがい	農	完成
高富	石狩川水系地蔵沢川	石狩町 大字八幡町	0.22	かんがい	土改	本体工事中

空知支庁 Sorachi

ダム名	河川名	所在地	湛水面積 (km ²)	種類	管理者	現況
滝里	石狩川水系空知川	芦別市 滝里町	6.80	直多	建	本体工事中
新桂沢	石狩川水系幾春別川	三笠市 桂沢	6.66	直多	建	準備工事中
三笠ばんべつ	石狩川水系奔別川	三笠市 奔別	1.14	直多	建	準備工事中
徳富	石狩川水系徳富川	新十津川町 字北幌加	1.60	補多	道建	本体工事中
北海	石狩川水系豊沼奈江川	奈井江町 字奈井江	0.95	かんがい	農	準備工事中
夕張	石狩川水系夕張川	夕張市	15.10	直多	建・農	準備工事中
美沢	石狩川水系幌加尾白利加川	新十津川町	0.50	かんがい	農	計画中
梓白	石狩川水系梓白川	栗山町 字桜山	0.08	かんがい	土改	準備工事中
エルム	石狩川水系赤間の沢川	赤平市 字百戸	0.27	かんがい	農	湛水中
幾良	石狩川水系消水一の沢川	南富良野町	0.10	かんがい	農	計画中

後志支庁 Shiribeshi

ダム名	河川名	所在地	湛水面積 (km ²)	種類	管理者	現況
落合	余市川水系小樽川	赤井川村 字落合	0.31	かんがい	農	本体工事中
共和	堀株川水系リャムナイ川	共和町 発足	0.26	かんがい	農	完成

胆振支庁 Iburi

ダム名	河川名	所在地	湛水面積 (km ²)	種類	管理者	現況
白老	白老川水系白老川	白老町 森野	1.65	補多	道建	中止
厚幌	厚真川水系厚真川	厚真町 字幌内	3.24	補多	道建	調査中
安平	安平川水系安平川	早来町 字旭	1.44	かんがい	農	計画中
瑞穂	安平川水系支安平川	早来町 瑞穂	0.56	かんがい	農	完成

日高支庁 Hidaka

ダム名	河川名	所在地	湛水面積 (km ²)	種類	管理者	現況
二風谷	沙流川水系沙流川	平取町 字二風谷	4.30	直多	建	完成
平取	沙流川水系額平川	平取町 字芽生	3.10	直多	建	計画中
浦河	向別川水系向別川	浦河町 字上向別	0.60	治水	道建	湛水中

渡島支庁 Oshima

ダム名	河川名	所在地	湛水面積 (km ²)	種類	管理者	現況
松倉	松倉川水系松倉川	函館市 三森町・寅沢町	0.44	補多	道建	中止
知内	知内川水系ミナゴヤ川	知内町	0.46	かんがい	農	完成
大野	大野川水系中二股沢川	大野町 字中山	0.12	かんがい・都用	農	本体工事中
南郷	宗山川水系宗山川	上磯町	0.13	防災	道農	本体工事中
濁川	濁川水系濁川	森町	0.10	防災	道農	本体工事中

檜山支庁 Hiyama

ダム名	河川名	所在地	湛水面積 (km ²)	種類	管理者	現況
鶯	厚沢部川水系鶯川	厚沢部町 字峠下	0.66	かんがい	農	湛水中
上ノ国	天野川水系目名川	上ノ国町 内郷	0.22	補多	道建	本体工事中

上川支庁 Kamikawa

ダム名	河川名	所在地	湛水面積 (km ²)	種類	管理者	現況
忠別	石狩川水系忠別川	東神楽町・東川町	3.70	直多	建	本体工事中
しろがね	石狩川水系オヤウンナイ川	美瑛町 美沢 2 7 線	0.47	かんがい	農	湛水中
東郷	石狩川水系奥の沢川	富良野市 西遠布 3 の山	0.44	かんがい	農	湛水中
ペーバン	石狩川水系ペーバン川	旭川市 東旭川町 瑞穂	0.27	かんがい	農	完成
神居	石狩川水系オイヤヌンベ川	旭川市 神楽町	0.39	かんがい	農	完成
フヌイ	石狩川水系二股川	美瑛町 字二股	0.40	かんがい	農	計画中
サンル	天塩川水系サンル川	下川町	4.50	直多	建	準備工事中
西岡	天塩川水系小沢川	剣淵町 西岡	0.09	補多	道建	調査中
トマム	鶴川水系八戸沢川	占冠村 上トマム	0.06	補多	道建	中止
大沢	石狩川水系大沢川	当麻町	0.11	防災	道農	本体工事中

留萌支庁 Rumoi

ダム名	河川名	所在地	湛水面積 (km ²)	種類	管理者	現況
雄内	天塩川水系三十号川	天塩町 オノッブナイ	0.23	かんがい	農	計画中
留萌	留萌川水系チバベリ川	留萌市 幌糠町	2.20	直多	建	準備工事中
苦前	古丹別川水系三毛別川	苦前町 字三溪	0.83	かんがい	農	本体工事中
樽真布	留萌川水系樽真布川	留萌市 樽真布町	0.20	防災	道農	完成
上小川	古丹別川水系チエボツナイ川	苦前町	0.45	防災	道農	本体工事中
民安	サラキナ川水系サラキナ14号川	天塩町 字南更岸	0.38	かんがい	農	工事中
大楸	大楸川水系大楸川	小平町	0.17	防災	道農	本体工事中
幌	天塩川水系ベンケエベコロベツ川	幌延町	0.12	かんがい	農	計画中

宗谷支庁 Soya

ダム名	河川名	所在地	湛水面積 (km ²)	種類	管理者	現況
猿払	鬼志別川水系鬼志別川	猿払村	0.35	かんがい	農	計画中
歌登	徳志別川水系ベンケヨナイ川	歌登町 上徳志別	0.14	かんがい	農	中止の見込み

網走支庁 Abashiri

ダム名	河川名	所在地	湛水面積 (km ²)	種類	管理者	現況
古梅	網走川水系石切川	美幌町 字古梅	0.29	かんがい	農	完成
卯原内	卯原内川水系卯原内川	網走市 字卯原内	0.34	かんがい	農	湛水中
海別	奥薬別川水系奥薬別川	斜里町 朱円	0.57	かんがい	農	準備工事中
雄武	雄武川水系イソサム川	雄武町	0.21	かんがい	農	本体工事中
緑	斜里川水系アタクチャ川	清里町	0.53	かんがい	農	本体工事中
生田原	湧別川水系生田原川	生田原町	0.12	かんがい	農	計画中

釧路支庁 Kushiro

ダム名	河川名	所在地	湛水面積 (km ²)	種類	管理者	現況
底路	底路川水系底路川	白糠町 字滝の上	2.35	補多	道建	準備工事中

十勝支庁 Tokachi

ダム名	河川名	所在地	湛水面積 (km ²)	種類	管理者	現況
札内川	十勝川水系札内川	中札内村	1.70	直多	建	完成
幕別	十勝川水系幕志別川	幕別町 字日新	0.29	かんがい	農	本体工事中
美生川	十勝川水系美生川	芽室町 字伏見	0.66	かんがい	農	湛水中
美瑛	十勝川水系第6西上幌内川	鹿追町	0.40	かんがい	農	計画中

産卵場所、水生昆虫の種類などを調べ、まずメモを作る。栄養素や土砂を送り込む、まわりの森林を歩いてみる。地元で古老に昔の川のような音を聞く。これらを積み重ねると、ダムによるダメージが鮮明になってくる。

◎仲間をつくってみよう
個人でやれることもあるが、やはり仲間がいると心強い。まず、関心のありそうな釣り仲間を声をかけてみる。どの地域にも、魚や野生動物、森林、川などに詳しい人がいるものだ。気軽に相談するとよいアイデアが生まれるだろう。

◎事業者の説明をさせよう
知らない間に工事が進まないように、事業者の説明してもらおう。行政などから積極的にPRするケースは少ないので、なるべく早く要望するとよい。別項の事業者別の担当窓口を参照してほしい。

昔は権力的なお役人がいたようだが、いまは河川法も変わり、市民の意見を反映させる時代。担当者も柔軟になってきている。疑問点はどんどん聞いてみよう。ただし、憤りのあまり、喧嘩腰になるのは避けたい。あくまで、聞き上手になるほうが得策だ。

◎釣り人に与える損害を試算しよう
ダムで釣りの魅力は激減する。ほかの川に向くことになるが、代わりの川はないかもしれない。車の燃料代、仕事を休む人は失われる稼ぎ、家族連れで釣る人は子どもに与える教育、情緒形成面の損害……などを金銭に換算してみる。1人では少なくても、大勢の釣り人なら多額になるはず。試算をもとに、「この損害をどうする」と関係方面に訴え、一般の人に説明していけば、説得力のある話になるだろう。

◎問題をアピールしよう

自ら調べたり、説明を聞いたりして分かったことを、釣り仲間や地域の人たちに知ってもらおう。釣り人らしいチラシを作って配ってもいい。気軽に参加できる講演会やスライド・ビデオ上映会、コナンサーなどの催しをやってみる、という手もある。

報道関係者のなかにも、きっと、関心をもっている人がいるはずだ。声をかけると記事になるかもしれない(本誌への投稿も大歓迎です)。また、説明してくれた行政担当者にも案内状を出して、自分たちの主張を伝えてみてはどうだろう。知恵を絞ると、いろんなアイデアが生まれてくるはずだ。

◎生態系を壊さないように要望しよう

投資効果が小さく、生態系に悪影響を与えるダムは「百害あって一利なし」。調べたデータをもとに、事業者に計画の見直しを求めることが大切だ。一緒に現場を調べてもいい。代替案があるかもしれない。結局は、事業者とよく話し合うことに尽きる。粘り強く説得していけば、打開策が見えてくるだろう。

◎不要なダムの撤去を提言しよう

既設ダムのなかには、役割を終えたもの、老朽化して機能していないものがある。これらのダムを、撤去するように関係機関に提言してみるのもよいかもしれない。

魚や野鳥も戻ってくるし、新たな土木工事も生まれるので一石二鳥。ダムの撤去とともに、「ピオトープ」(環境復元)を基本理念とした多自然型河川工事を行えば、行政に対する評価も高まる。今これが実現すれば、先進事例として全国から注目されるだろう。

事業者も、釣り人も、そして一般市民も、自然の姿のごく一部分が分かっているだけで、トータルに把握できている人は少ない(研究者でさえそうかもしれない)。だから、ひとつのダム予定地を徹底的に調べて、さまざまな提案を積み重ねていけば、誰もが語り手になれるのかもしれない。

釣り人は、日頃から河川環境の移り変わりを肌で感じているはず。ダム問題を追いかける釣り人が、道内各地に育ってほしい。

◎直轄ダム(1級河川)

北海道開発局(☎011-709-2311/代表)の河川計画・河川工事・河川管理の各課
各開発建設部の治水課もしくはダム事業所

◎補助ダム(2級河川)

北海道庁(☎011-231-4111/代表)の河川課
各土木現業所の治水課もしくはダム事業所

◎かんがいダム(農水省関係)

道開発局の農業計画課もしくは農業水利課
各関連の農業開発事務所

◎かんがいダム(北海道関係)

道農政部の農村整備課もしくは土地改良指導課
各支庁の農政担当課

◎発電ダム

北海道電力(☎011-251-1111/代表)、
電源開発(☎011-221-8445)、道企業局など

◎水道用水ダム

各自治体の水道担当部署



発電の役目も終え、老朽化が進んだ雄武町の幌内ダム。現在は巨大な砂防ダムではない